

エス・ユニット株式会社

特性に合わせて柔軟に対応し、作業効率アップ°

障害者雇用の壁が低くなった

当社で行っているPrinting & Packaging事業では、袋詰め等の短期間で大量に行う業務が発生するため、これまでも労働力の確保の必要性を感じていました。印刷業界はシンプルな作業が多いため、障害者雇用との親和性が高いのではと思っていましたが、知識も経験もなかったため、実習生を受入れ、今後の検討材料にしようと思いました。はじめは、障害のある方への接し方や、どれくらい仕事ができるのかわかりませんでしたが、支援者からのアドバイスや、実習中の様子を見ながら柔軟に対応しました。今後も障害者雇用に向けて、知識や経験を積み重ねていきたいと思います。

実習の流れと工夫

実習内容の検討・決定

・作業工程の少ない、シンプルな業務を切り出す。

実習生の決定

・実習生の障害特性や、障害による症状が出た時の対処方法について、支援者から担当社員に事前共有。

・実習中に障害の症状が出た際、実習担当者から実習生に対処方法を行うよう声かけ。

担当社員の教育

・実習の振り返りで、会話をしながら作業する方が障害の症状がでにくいことがわかる。

・可能な範囲で会話を取り入れながら作業を行い、作業件数がアップ。

実習開始

実習を通して気づいたこと

障害のある方の受入れが初めてだったため、障害のある方がどれくらい仕事ができるのか、また、接し方や声かけの方法もわからず、不安がありました。

実習前に、支援者から実習生の障害特性や配慮事項等を伺うことができ、接し方が分かったので、少し安心しました。実習中は、実習生が作業の進捗状況や体調の変化等について、自己発信してくれたので、当初の不安はなくなりました。実習の様子を見ながら、より責任のある作業も追加で切り出して実習を行いました。しっかり対応してくれました。また、実習の振り返りで、会話を取り入れた方が障害の症状が出にくいことがわかったため、可能な範囲で対応しました。実習生の元気の挨拶がとても気持ちよく、実習担当者以外の社員にも良い影響がありました。